

西脇市議会議長
林 晴信 様

請願書 陳情書	受付第	号
令和4年 5月24日		
西脇市議会事務局		

令和4年 5月 23日

陳情者

市立しばざくら幼稚園閉園延長に関する陳情書

1 陳情理由

コロナ禍により転園までの準備期間、情報共有が不足している中での閉園が迫っている状況で私達保護者の不安は日々募っています。卒園出来ないことを了承した上での入園、同意書にサインをし入園できたことは事実であります。特に2018年生まれは待機児童の懸念があり、しばざくら幼稚園に入園する前に足を運んだ認定こども園でのオープンスクールでは3歳児の受け入れが難しいと直接言っていたこともある中、閉園までの児童受け入れを延長して下さったこと、しばざくら幼稚園に通える選択肢が与えられたことに感謝しております。

入園時から転園先の希望確認があり、当時はこの2年をかけて幼保連携課とのコミュニケーションをもって、転園までのビジョンが明確になっていくのだと思っていました。ですが実際は、コロナ禍により交流する機会がなく、スライドショーで認定こども園の様子を流し一方的に説明されるスタイルでの説明会が令和3年度に一度あったきり、一刻一刻と閉園は迫り、こちらからお願ひして二度目の説明会が令和4年度5月23日に開催される運びとなりました。（陳情書提出期限が同日であった為、説明会を聞いてからでは遅いと判断し、現地点での陳情を書いている次第です。）幼保連携課の担当者様には親身になっていただいてますが、個人での認定こども園への問い合わせの反応には疑問が残るケースが多くあります。事実、保育士不足、多忙を極める認定こども園の保護者への対応と、幼保連携課への対応、就学前教育・保育の質の向上推進委員会への対応には差があるように感じています。待機児童ゼロとはいっても、実際は希望の園に入れないので入園を待つことになる保留児童が増えるのではと懸念しています。

今現在通っている子どもたちの先生に対する信頼、幼稚園に対する安心感を失いたくありません。成長の為には試練も必要なことは理解はしていますが、同じ園でも年少から年中に上がる時に緊張感やプレッシャーから朝、登園を拒む子たちもいました。それでも入園した時の不安で不安で仕方がない様子で大泣きするようなことはなく、成長を感じています。これが知らない場所、知らない先生、知らないお友だちとなった場合どうなるでしょうか。我が子の不安を和らげようとこども園とコミュニケーションを取りたくても、取り合ってもらえなかつたらどうすれば良いのでしょうか。子どもが登園を拒めばそれは仕方がないことなのでしょうか。幼稚園という場所を失ってからでは遅いのです。

幼児教育センターとしての役割を、引き続き幼稚園を運営しながら、認定こども園の先生と活発なコミュニケーションを取る場として活用して頂きたいです。公立の幼稚園と認定こども園が切磋琢磨して就学前教育の質の向上を確立していく全国的に珍しいシステムを、しっかりと引き継ぎでくるまで続けてください。流行病に振り回されないように、結果を閉園に間に合わせるのではなく、納得のいく結果が出るまで続けてください。

市立しばざくら幼稚園に通わせるの後の道を、消去法で選ぶようなことはしたくありません。しばざくら幼稚園に通ったからこそ、就学前教育の大切さを知ったのです。コロナ禍で自由に動けない中ここまで築き上げられた素晴らしい複数年教育を、閉園の期限まで急ぎ足になってしまふのはあまりにも勿体無い。閉園の延長を求めます。

保護者目線の現状をお伝えできる機会をどうか頂きたいです。

2 陳情項目

- (1) 令和7年3月末までの市立しばざくら幼稚園閉園延長をお願いします。
- (2) より積極的な保護者と認定こども園とのコミュニケーションの取り計らいをお願いします。

3 他陳情者の名簿を添付しています。